

未来ノート

-202Xの君へ-

バドミントン

のぞみ

奥原希望

父も驚いた本気

目標は常に書く

格上に負けない

絶対女王への道

負けて驚かれる選手に

「勝って驚かれるのではなく、負けてニュースになるような選手になりたい」

は、帰国会見の場で語った。

昨年8月、リオデジャネイロ五輪銀メダルのシンドウ・ブサルラ（インド）を決勝で破り、世界選手権で日本のシングル史上初の世界一に輝いた奥原希望

思い描くのは、女子レスリングの伊調馨や吉田沙保里、柔道の選手たち。試合で負けると「ええっ？」と驚かれる存在だ。世界一になって以降、祝勝会の場や記者会見で奥原は「絶対王

者」という言葉を口にするようになった。

頭の中には「理想とする

もう1人の自分」がいるという。その自分は「追いつこうとしても、必ず自分の一歩先を歩いていく」。だから、世界選手権で優勝しても「勝った瞬間に、それは過去のことで、大きな大会で結果を出せるという自信はついたけど、あくまで通過点」と言い切る。

では、東京五輪で金メダルを取っても「理想の自分」にはたどり着かないのか。「近づけたかなあ、くらいですね。自分が妄想している人間像は本当に完璧だから」と笑う。

そういう人間力を持った人に私はなりたい」

インタビュアの最後に、子どもたちに向けて色紙にメッセージを書いてもらった。普段サインを書くときにそえるのは埼玉・大宮東高時代の恩師大高史夫さん（66）が掲げていた「克己心」。苦しいとき、自分に打ち克つことが大切だと言われてきた。ただ「克己心は子どもには難しすぎるかな」。いろいろ考え、この言葉を記した。

「今を全力で」
東京五輪に向けても「1日1日、自分がやるべきことを最大限にやっている」と語る奥原らしい言葉だ。

(照屋健)



上 リオデジャネイロ五輪でショットを放つ奥原(2016年)
下 メッセージを書いた色紙を手にする奥原(山本和生撮影)

「勝つことだけじゃない。子どもたちがめざす、まねしたくなるアスリートにならなきゃいけないし、

◇ 次回はサッカーの浅野拓磨選手です。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。